

＜神のことを思う＞

マタイ 16 : 21 ~ 25

その時からイエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。 【21節】

どの時から・・・？ 【15～18節】

イエス様 「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」

ペテロ 「あなたは、生ける神の御子キリストです。」

イエス様 「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。

ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。

- ◆教会を建てるのはイエス・キリスト御自身。
- ◆「あなたこそ生ける神の御子キリストです。」この告白を聞いたイエス様は、初めて教会について口にされた。
- ◆教会は「あなたこそ生ける神の御子キリストです。」という告白の土台の上に建てられる。

ハデス・・・新約聖書ではギリシャ語のハデスという言い方をそのまま使用。
「よみ」という意味。

イエス様が多くの苦しみを受け、殺される！ これを聞いたペテロ
「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」

「神の御心」を悟らなければならない時が近づいていた。

これから向かう新しい局面について。それは・・・

ハデスの門を粉碎するほどの力がある教会。それは、神の御子キリストが多くの苦しみを受けて、十字架で死んだ後に、3日目によみがえる、その主を告白する上に建てられる。この教会の時代がやってくる！

「下がれサタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神の事を思わないで、
人の事を思っている。」

神のことを上回る人の情。それは時に神の御思いを塞ぎ、サタンに付け入るすきを与える危険が潜んでいる。

『下がれ。』・・・直訳「わたしの後ろに退け」という意味。
イエス様は「ご自分の導きの後につきなさい」とペテロを教え導かれた。

- ◆ 麗しく思える人間的な情愛というものが、時に十字架に向かう道を塞いでしまう
♪ 「君の元に行きしときに重荷は全て去れり」
at the cross, at the cross where I first saw the light,

だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。【24、25節】

<現代訳>

だれでもわたしの弟子になりたいなら、古い自我を捨て、恥と苦しみと死を意味する十字架を背負い私についてきなさい。自己保身的な人はかえって大事ないのちを失ってしまう結果になり、わたしのために自分のいのちを犠牲にする人はそれを本当に自分のものにすることができます。

イエス様が苦難の道を歩むことを語られたとき、ペテロはそんなみじめな道ではなく、栄誉に輝く道があるはずだ。それこそが神の恵みと主張した。

しかし、ペンテコステに聖霊のバプテスマを受けた弟子たちは、イエス様の足跡を踏んでついて行った。

それは、生き生きと喜びにあふれて主に従う姿。誰かに強いられたり、盲従したのではなく、自分の意志や判断に基づいて行動する、主体的に神様の導きに従う姿だった。